

## 農研機構ワークライフバランスセミナー開催報告

### チーム育児のすすめ ～育児は仕事の役に立つ?!～\*

育児中の職員が、育児と仕事の両立の工夫や家庭での分担、育児と仕事の相乗効果についてお話をしました。それぞれの上司や先輩からも、配慮や気づきについてお話を伺いました。



長田理事の子育て話に  
和むオープニング



平成29年  
6月29日 (木) 13:10～15:30



- 場 所 食と農の科学館  
オリエンテーションルーム
- 対象者 農研機構職員（再雇用職員、契約職員を含む）  
DSO参加機関所属の方
- 参加者数 つくば地域69名／地域拠点22名  
合計91名

\* 育児は仕事の役に立つ「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ（浜屋祐子・中原淳 著 光文社）から引用

## トークセッション

### 育休も育児も家事もシェア ～生活と仕事の持続可能性を求めて～

吉田 晋一 氏（北海道農業研究センター 水田作研究領域 主任研究員）

- 様々なリスク・出来事が生じて、生活と仕事を継続できるように、育休も育児も家事もシェア＝チーム育児を行う。
- 夫婦共働きで、夫の方が家事・育児などを「手伝ってやる」という意識では危ういと思う。家事も育児も夫婦で情報共有し、シェアすることで、相互理解・共感につながる。
- 仕事があるからバランスがとれ、育児しながらでも、一定の条件下では仕事の効率を上げ、業績を残すことは可能だと思う。
- ★ 「今月の惨事」→お子さんたちから家族全員が次々とウイルスに罹患（涙）、また「夫婦の家事負担の見える化」を表にして楽しく紹介。泣いている可愛いお子さんのコメント、我が家には「〇〇がない！」には、会場大笑いしつつ、共感と呼んでいました。家事と仕事の両立のための時間のやりくりや具体的な工夫、いまだ少ない男性の育児休業の体験など具体的にお話いただきました。



### 仕事も育児もメリハリをつけられるよう、日々取り組んでいます

上地 奈美 氏（果樹茶業研究部門 生産・流通研究領域 虫害ユニット主任研究員）

- 時間的制約に直面している共働きの育児は、「育児の実行」に加えて、「育児の体制づくり」を含む活動と捉えられる。夫との協力・分担をある程度進めて、家庭内での育児・家事役割分担の計画や状況把握、見直ししている。また育児をめぐる家庭内での情報共有や育児方針を話し合いながら、家庭外の育児支援サービス提供者らとの関係構築や日々の連携を大事にする。



●「仕事とは無縁と思われる育児経験が、リーダーシップ促進など、ビジネスパーソンにより影響を与える」という画期的研究を元に、未来の働き方を考える内容の本。育児中に何となく「仕事と似ているところもあるかも？」と感じていた。

●「体制づくり」を見える化して、ひとつずつクリアしていけばいいと思う。

★今回のセミナー開催の契機となった「仕事は育児の役に立つ」（浜屋祐子・中原淳 著）をお読み下さり、ご自身の「チーム育児」と照らし合わせて振り返りをされた内容。単身で子育てしていた時期に必死に育児の体制を整えようとされていたこと、育児と仕事で似ていると感じたところ（ひとりで抱え込まない、効率化、優先順位を考える、客観的に状況を把握するなど）など、チーム育児の必要性、効果についてお話いただきました。

## 役割にこだわらなければうまく行く！！自然体で無理なく楽しく育児を！！

江口 貴史 氏（野菜花き研究部門 企画管理部企画連携室企画チーム 主査）



●コミュニケーションは重要なことであり、家庭も仕事もよいコミュニケーションがあれば、ハッピーに生きていける。前向きになれる。人を助けて自分の仕事が成り立ち、また人に助けられて自分の仕事が円滑に運んでいる。

●人は変わらないのではなく、ただ「変わらない」という決心を下しているに過ぎない。

子育ては「母親」がするのではなく「親」がすることで、夫婦に与えられた共通のミッションである。そこで、父親・母親の役割なんて関係ない。

●職場ではあなたの代わりになる人はいるが、家族でああなたの代わりになる人はいない。つまり、生活（育児）を考えることは自分の仕事のありかたを考えることであり、お互いに持ちつ持たれつ、職場でのコミュニケーションを円滑にチーム、グループで育児をすることだと思ふ。

★これまでの業務を通じて感じた一般職の業務改善提案をお話されると共に、中高生のお子さんのために作るお弁当の紹介（毎日添えられる小さなお菓子を父の想いをこめて）に心温まりました。仕事でも家庭でも役割にこだわらないこと、コミュニケーションを取って楽しく過ごすことの大切さを豊富な引用をもってお話されました。

## 時は流れる ～その時々を楽しんで～

小山 弥生 氏（本部人事部職員課 主査）



●職場で普段から良好なコミュニケーションを心がけ、助けてもらいやすい心配りに気をつけていた。

●いつかは、助けられる側から助ける側になりたい！と思っていた。現在では、家庭では子供達に支えられることも多く、職場では少しは支える側になれているとよいな、と思う。

●育児に関する制度は、先輩たちからの贈り物だと思い、積極的に利用し、よりよい制度を次世代に残していこう。いつか、時は流れ、苦しいときも、楽しいときも過ぎることであり、家庭・職場などに「感謝」と「謙虚」の気持ちを持って育児だけではなく、その時を楽しもう。そして、恩返しは後輩に。それが「循環、幸せループ」となることだと思ふ。

★お子さんが高校生と中学生になり、子育てにおいて時間の制約が大きい時期を乗り越えた先輩から育児中の職員へのエール。後輩を想う優しい語り口にほろっとした育児中職員は多いと思います。完璧な育児でなく「ウチは今日もやきそばだけ♪」と言って、気持ちをラクにしてくれた先輩の話もあり。そして「やきそば」先輩からの心強いメッセージも。

## リスク管理のための幅とバランス

北澤 裕明 氏（食品研究部門食品加工流通研究領域食品流通システムユニット主任研究員）



- 育児は仕事の役に立っている。育児をしっかりと取り込むことによって仕事を理解してもらえ、仕事がしやすくなる。周囲（職場）の理解と信頼関係について、上司・同僚からの理解をいただき、それに「裏切ることにはできない」という気持ちもモチベーションの維持につながってきた。契約職員による実験補助の貢献も大きい。
- 各ライフステージにおいて自分にとって不本意な事態に遭遇すること（→リスク）を全て可避することが困難であれば、対処できる様に訓練しておく。幅とバランスを持って仕事をすることは、自身にとって不本意と思う事態を減らすことにつながる。育児は幅とバランスに繋がる。
- ここまで、ひとりの力で来られた訳ではないし、自分のやり方が正しいかどうかはわからないが、幅とバランスと「謙虚さ」は大事なことだと思う。
- ★ 子育てしながら2つめの学位を就職後に取得されたお話、研究にまつわる各種活動にも積極的に取り組まれる様子を、まさに仕事と育児の相乗効果を体現されていて、さすが！の一言。想定されるリスクリストの中に「褒めてもらえない（周囲に仕事を理解してもらえない）とあったことも印象的（確かに、と思いつつ）。上司の「下克上を歓迎する」とのコメントに風通しの良い職場を感じました。

発表者それぞれの直近の上司の方、あるいは先輩職員からコメントをいただきました。  
心に響くコメントから皆さまの良い関係性が垣間見えました。

## パネルディスカッション

理事長や理事を交えて、話題提供者とともに育児と仕事の相乗効果、チーム育児についてディスカッションしました。

参加者からは、「育児に対する取組は人それぞれであり、正しい、正しくないというものではないこと実感できた」、「すべての育児当事者が、大変だけど「楽しく」取り組んでいる姿勢を強く感じた」、「男性の語る「チーム育児」の切り口が新鮮でとても面白かった」、「同じ育児実施中の立場として、育児に対するそれぞれの考え等を聞くことができ、自分自身の仕事や育児に対するやる気が起こった」などの感想がありました。



## 本セミナーの上映会をしませんか？ DVDの貸出しをします

本セミナーの動画DVDの貸出しをおこないます。

今回参加者アンケートに、「参加できなかった方にもぜひ聞いて欲しい、観て欲しい」との要望が沢山寄せられました。

**各研究センター等の男女共同参画推進窓口を通して貸出しを致します。**

※貸し出せるDVDは数に限りがございますので、課・室等のグループ単位でお申し込みください。

- 貸出期間：2週間
- 収録時間：約120分
- 収録内容：オープニング／トークセッション／ディスカッション